

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社めぐみ	代表者	坂本慎吾	法人・事業所の 特徴	「お一人お一人の思いを大切に、健やかな日々が送れるよう支援します。地域の皆様に愛される施設を目指します。」を理念に掲げ、代表の自宅を改造し、地域の中で家庭的な雰囲気での支援を行っている。 利用者だけでなく、地域の方々にも気軽に相談できる場所として運営を行っている
事業所名	小規模多機能型居宅介護めぐみ	管理者	大森裕志		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	1人	1人	人	人	1人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>①モニタリングと位置付けてはいないが、現在も送迎時などで折に触れ現状について確認はしている。初期のケア内容に対する本人の反応や家族の意見などを「初期モニタリング」として記録に残す。</p> <p>②目標を聞く時にもっと具体的な内容を確認できるようにする。そこで知りえた目標をケアプランに反映させ、支援内容に反映させる。</p>	<p>初回面接では特に「今何に困ってどうしてほしくて利用を考えているのか」に焦点を当てて面接を行い今後も困ったことがあれば柔軟に対応していくことができると伝え家族・本人が安心できるよう図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回の利用前にケアマネが申し送りノートに基本情報、簡単なアセスメント、支援内容、留意点等を事前に係れているので見て確認している（朝の申し送り時にも伝え職員が共有している）。 ・利用に慣れるまでは緊張されていることもあり不安や心配なことはないか声掛け、気配りをしていき居心地のいい場所となれるよう配慮する。 ・送迎時、家族から体調変化、変わった様子はないか聞く。連絡ノートでも確認する。 <p>独居の方も多くなり家族とのかかわりが難しい方も増えてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期モニタリングをして記録に残すことが習慣化できていない。 <p>慣れた地域での生活の継続を支援すること、利用者様の「～したい」という要望を理解して支援できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の目標は今の状態を維持し不安なく生活したい」という方が多い。 ・家族の介護負担の軽減の為に対応。個々の思いを受け入れ対応できている。 	<p>自己評価の取組みとしては、改善点は特にみられず。</p>	<p>① 新規契約の方は、契約1か月以内の支援時の様子を写真に撮り、家族に渡すこととする。</p> <p>② 「興味・関心チェックシート」を導入。利用者の現状や意向を担当者が分析し、介護計画評価時、介護計画作成時に活用する。</p>

	<p>③以前の暮らし方については支援の際に意図的に情報を得る努力をする</p> <p>④利用者のいる地区の民生委員さんに声掛けし連携を図る</p> <p>⑤地域の人たちと連携してケアを考える機会を持つ</p>	<p>身体・様子の変化を記録、申し送りに反映している（痛み訴え、断った様子など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ADLの状態をみていき、きることは見守り自立に向けた支援は概ねできている。 ・前日の体調や変調、通所宿泊での変わった様子など朝の申し送り時で職員間で情報を共有している <p>本人から聴取できた情報に正確性が乏しく、情報として活用しがたいものが多かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前の暮らしは本人が語ろうとしなかったりして見えていないところが多い。また以前の暮らし方を知っている人との情報交換する機会がなく、できていない。 ・昔の生活情報を「こうする！」という風には活かしていない。 <p>地域ケア会議も開催され情報提供することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に地域の役員の参加をしてもらっている。 ・他の地区行事や集まりへ事業所から連れて行き参加している。 ・夜間外出など帰宅されていての行動は地区の方々が見守り、民生委員に連絡し地区で生活できている。 <p>地区の行事（敬老会、ふれあい会等）に積極的に参加している。</p> <p>地区以外の方の利用者の民生委員がわからない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての利用者の地域の民生委員さんと連携できているわけではない。 <p>家族の希望の宿泊は優先し受け入れを行っており家族を支えることも行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独居の利用者には休む際、バイタル測定や観察など行い情報は共有している。 	<p>④ 地区外の民生委員との連携とあるが、実際取っているか？→現状他所の利用者の民生委員と連絡を要するような事例がない。</p>	<p>③ 本人、家族のやり取りの中で聴取した以前の暮らしや「～したいこと」を記録する。それを担当者は月評価の際にフェースシートに記入する。</p> <p>④ 真穴地区以外で、独居等で地区の方の支援が必要な場合は民生委員など地区の方と相談する。</p> <p>⑤ 現在でも柔軟な支援を行っている。継続していく。</p>
--	--	---	---	--

	<p>⑥地域ケア会議を行い、地域のニーズを掘り起こす。</p> <p>⑦運営推進会議の日に訪問担当になった職員が会議に参加する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の受け入れを超えることがあっても突然の泊まり、通所依頼あれば調整して受け入れている。体調不良時には訪問回数を増やすなど状況に応じて対応した。 ・日々の関わり変化などミーティング等で共有できている。 ・公民館行事に参加させてもらったり敬老会、クリスマス会では保育所、中学生も参加してもらっている。 ・①独居の利用者にとって親戚や近所の方の関わりは大切。介護サービスが入ることでその関わりが薄れないようにしたい。 ・体調変化や普段と違った様子など記録し、朝の申し送り時、伝達し職員間で情報を共有した。 <p>地域での行事も機会があれば参加させてもらっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穴井診療所とは急変時など来ていただけるよう連携できており、福祉用具が必要な利用者には都度対応している。公民館行事にもできる時は参加しており近所の子供、職員の子供も来るときがある。福寿会・地区カラオケ会といった行事に参加している。保育所、中学生の行事への参加や総合授業の受け入れをしている。 ・地域密着型連絡会など必要な会議には参加できた。地域の社協の会、婦人会、消防団など会員となり積極的に参加している。 ・高齢者はなかなか来所される方がいない。地区でめぐみは認知症の方ばかり通所していると思われる。 <p>職員と運営者側とは意思の疎通が図りやすい環境にある。常に話し合っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議では地区の方の色々な意見をきき協議を行っている。 ・運営推進会議の議事録を見る限りできている。 ・老人会にめぐみの支援の説明会、独居老人の三 		<p>⑥ 地域から研修・会議参加依頼があった時は積極的に参加する</p> <p>⑦ 運営推進会議の日に入浴か訪問委なった職員は参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員が一度は参加できるように図る。
--	---	---	--	--

	<p>⑧一人一人がスキルアップの為の研修目標を決める</p> <p>⑨業務中の利用者に関する報告は声の音量を小さくして話す</p>	<p>地区合同の集いに体操、歌に参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員としての意見は職員会の際、言うことができている。 ・運営推進会議やケアマネのモニタリング時、本人、家族から意見、苦情があれば職員に伝達し反映できるようにしている。 ・スタッフ会を利用し会議に参加した人が報告。地域の相談も乗っている。 <p>訪問担当でも時間がなく、なかなか会議に参加することができないこともあった。</p> <p>研修への参加はできるだけ行っている。特に地元の連絡会は。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標、行きたい研修を設定し行っている。また毎月職員会にて職場内研修、ヒヤリハット、事故事例の話し合いをしている。 ・リスクマネジメントに関する研修を受ける。ヒヤリハット、事故報告書を書き、職員会議で報告し原因、対策を話し合い、再発防止に努めている。 ・介護福祉士など目標とした資格を取得しているので、資格取得を目標とした研修には行っていない。 <p>拘束や虐待は行っていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の思いに寄り添い自由に出入りする支援を行えている。 <p>報告はどうしてもフロア内になってしまい聞こえている時もある。施設の状況からも難しい場合もある。職員の話を聞きながら利用者によっては会話に入ってくる方もおられるので、他の利用者さんに聞こえておりプライバシーは守っていないかもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いがけない行動をするときがあると大声を出し、利用者を注目させる行動がある。 		<p>⑧ サービスの質の向上を図るために研修だけではなく、マニュアルの見直しを行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各職員が持ち回りで講師となり職員会議内での講習会を開催する。 <p>⑨ 利用者の行動を制止する際は離れたところから行わず近くに寄ってから行う</p> <p>自己評価の取り組みとしては、改善点は特にみられず。 @</p>
--	---	---	--	--

<p>B. 事業所のしつらえ・環境</p>	<p>利用している人が心地よいと思える環境になっていると思う。 特になし</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・初めて来る人には場所がわかりにくい。曲がり角に看板があれば理想的。 ・面会者が来た時に、どこに車を止めたか確認した方がいい。以前、前の路地に車を止めた方がいて警察まで連絡があった。せっかく地域に根差して活動しているのに、こういう所で近隣ともめるのはもったいない。 ・事業所のしつらえについては、問題ない。 ・駐車場がいっぱいの時などは職員であれば寺の駐車場を使ってもかまわない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面会者、来所者には駐車した場所を確認する。 ・可能なら曲がり角に看板を設置する ・相談ごとなどは1階か2階の和室で行う。
<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>介護的なことの相談は常に受けているということで心強い このまま続けてほしい</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・保育所、小中学生と交流しているので家庭でも話題になっているはず。より多くの人に周知してもらっていると思う。川上や合田ではそうでもないかもしれないが、真穴なら大体知られていると思う。 ・地域に根差しているので預ける方としても安心。 ・区長が変わる時には挨拶しておいてもいいかもしれない。区の困りごととは区長に行くことが多い。話を通しておくと相談があるかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今のまま地域との関わりを保つ。 ・区長、消防団長など改変時期は気にしておき、適宜相談できる関係を維持していく。
<p>D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>老人会など求めに応じ、介護保険、小規模多機能型居宅介護について説明する機会を持つ</p>		<p>毎回、推進会議の資料をみると結構外出しているし、地域の行事もよく参加している。このまま維持してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進会議で話題になった方がいたら、事業所だけではなく、会議の参加者全体で情報を共有している。 ・それ以外の人にもいつでも相談に來れる場所としてのアピールは必要かもしれない。 	<p>今のまま地域の中で活動していくのを維持してほしい。</p>

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>地域の人のことが話題になり、会議で話した人が利用に繋がることもある。 このまま続けてほしい</p>		<p>他所の推進会議に比べると、地域の中に根差しているのがよくわかる模範のような推進会議だと思う。このまま続けてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所の報告だけに終始せず、地域の人のこと等話題によくなっている。それで何か解決することばかりではないが、ここにいる様々な立場の人が、それぞれの立ち位置で少しでも気にすることができるようになる。情報を共有することはやはり大切だと思う。 ・穴井区の民生委員の女性2人にも会議参加の声掛けをしてもいいかもしれない。現在1人参加してもらっているが、忙しい時など来られないこともある。そういう時に他の民生委員の方がいると情報が入りやすいかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の形態としてはこのまま維持してほしい。 ・地元の民生委員の増員を検討する
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>区の役員会などでも防災計画の話はしている。 有事の際には相談できる場であってほしい</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・災害の時になるとどうしても男手が必要。そうなると消防団との付き合いは重要だと思う。できれば有事の際には2人くらい回してもらえ体制が望ましい。 ・防災計画を作る時に消防団と相談しながら、現実的に対応できるものができたらいい。 	<p>防災計画検討時は消防団との連携を密に作成していく。</p>